


ねいの里 ホオホオニュース



ボランティア活動に参加して

生き物ふれあい自然塾の会 9月行事 「水辺の観察会と園内整備」

富山県職員退職者会高岡支部
ボランティア実行委員会
土田 敏和

まちに待った、第1回富山県職員退職者会高岡支部ボランティア活動を、富山市婦中町吉住にあります富山県自然博物館「ねいの里」で行いました。9月に入ったとはいえ、真夏の残照が厳しく、首にタオル、野球帽、麦藁帽子に長靴と皆さん色々なスタイルで、いこいの村「イソップ」駐車場に集合し、全員で「ねいの里」へ向かいました。

展示館では湯浅館長から「自然と人との共生」クマ、サル、イノシシなど動物との共存を目指すお話を聞き、生き物ふれあい自然塾の会メンバーの皆さんと共に5号池周辺に集まりました。

水辺の生き物観察「魚及び水生昆虫」事前に確保して頂いた希少なテナガエビやタナゴ類を観察し、又珍しい古代ハスの実を特別に取って頂き、これを食べると健康で長生きできるとの言い伝えがあると聞き、有り難く頂きました。

この後、職員の皆さんのサポートを受けながら外来植物除去作業に掛かりました。「ねいの里」では、水辺の生態園には毎年多くの外来植物が生える為、日本の里山固有種が育つ環境を整えようと主として「キシノウブ・セイタカアワダチソウ・アメリカセンダングサ」の除去活動を実施している。

作業中の一言

「アー、私の力で抜けな〜い」「ちょっと引っ張って」「チョットまっとられまん」「スコップのほうがいいよ」「そこ 危ないよあんまり奥へ入ったらダメだよ 池があるよ」「イヤー長いが（へビ）おったジャー」

外来植物をカマで刈る人、手で引っ張る人、スコップで掘る人、ゴミ袋に詰める人、一輪車で運ぶ人草に紛れ汗びしょりになりながら「アーのどが渴いたね、今何時け、11時30分だよ」話していたら、もう終わりにしましようとの長谷川職員の合図にほっと一息ついたところです。

終了後はお楽しみの懇親交流会になり炭焼き小屋での昼食、森林を眺めながら「ねいの里」で用意して頂いた豚汁を堪能し、語り合い、つかの間の時間でありましたが、さわやかな汗になったと思います。

この後、参加した退職者会全員で来年も元気で参加することを祈念して散会となりました。最後に、館長さんをはじめ、職員の皆さん、自然塾の会の皆さん、大変お世話になり有難うございました。今後ともよろしくお願いたします。



里の山にっこに

私のジュニアナチュラリスト活動
中学校1年 折口 奈々緒



私がジュニアナチュラリストになろうと思ったきっかけは、友達がジュニアナチュラリストの募集用紙を見せて、一緒に行かない？とさそわれたのがきっかけでした。

最初はジュニアナチュラリストってなに？ と思っていきました。ねいの里のHPを見て、植物や動物に関する事学べるというのを知りました。私は植物や動物が大好きで、ジュニアナチュラリストになろうと決めました。

ジュニアナチュラリストになって一番いい体験だったのは、有峰での研修でした。一泊二日で、のねずみを取るしかけを作ったり、夜にはコウモリまで見れました。また友だちもたくさんきて、貴重な体験ができました。



最近行われたアサギマダラのマーキングでは、飛び方に特徴のある蝶で、つかまえるのにも一苦労しました。でも3人で40匹以上にマーキングできたので嬉しかったです。

ジュニアナチュラリストになって植物や動物の名前を覚えられたりしてとても良かったです。それで川などで問題になっているミシシッピーアカミミガメなど、被害が出ている動物もくわしく学べて、ジュニアナチュラリストになれて本当によかったなと思いました。

活動をふりかえり

「クツワムシを愛でる」 8月21日（日）

4年目を迎えたクツワムシの鑑賞会が行われました。希少生物の保護増殖活動の一つとして5年前から取り組み始めたクツワムシの増殖活動が成果を上げ観察会では特徴のある大きな鳴き声で、参加者を喜ばしてくれます。

今年は例年以上にあちこちで鳴き声を聞くことが出来、鳴き声の付近を捜すと、すぐに姿を見つけることが出来ました。これは継続して来た保護増殖活動が順調に進んでいる事を感じさせられました。



記：長谷川 寛

ねいの里の秋を感じませんか

ねいの里職員 宮田 晴美

4月から週数日、ねいの里に勤務させていただいています。会社勤めの経験はありますが、自然を相手にする仕事は初めてであり、毎日発見と驚きの連続です。

ここねいの里も秋の訪れを感じられるようになりました。私たち日本人は、他国の人に比べ、虫の鳴き声ひとつとっても“ああ、美しい”とか“秋が来るのだな”と味わえる細やかなセンスが備わっています。その感覚を培ってきた日本の文化の素晴らしさ、大切さを改めて感じます。

さて、今年はねいの里開園30周年記念行事がありました。その行事の一つに保護されていたオオルリとトビの放鳥があり、無事飛び立って行きました。その傍ら放鳥の前に「練習はしたけれど、無事飛ぶのだろうか？」と子供を巣立たせる親のような気持ちで見守る鳥獣スタッフの方たちの姿がありました。もちろん、ねいの里の湯浅館長、その他スタッフの方々一人一人の持場で、自然そして環境保護の為に日々尽力されています。ねいの里にお越しいただいた際には、館長をはじめ、スタッフに声をかけてくだされば幸いです。至らぬ所もありますが、私も共にお手伝いできたらと思っています。



お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)
昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

自然塾の会行事予定

11月 6日 (日)	12月 3日 (土)
○ 9時30分 ~ 12時 ・ ネーチャーゲームで遊ぼう 紅葉の林でネーチャーゲームを楽しみます。	○ 午前9時30分 ~ 12時 ・ 木の実でクラフト作り
参加者/定員なし	参加者/定員なし

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

ねいの里行事予定

1月 4日 (水) ~ 6日 (金)	2月 5日 (日)
○ 9時 ~ 17時 ・ 春の七草を愛でる(七草頒布) 自然塾の会と共催行事です。	○ 9時30分 ~ 13時 ・ 動物の体を知る・愛でる 自然塾の会と共催行事です。
200セット (事前申し込み)	

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 9月 1日 ~ 11月 18日 ねいの里のキノコ写真展
11月 20日 ~ 12月 11日 いちよん会写真展
12月 12日 ~ 1月 16日 春の七草実物展
12月 16日 ~ 3月 31日 自然塾の会写真展

■ お願い ■

- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第23号
2011年10月12日
生き物ふれあい自然塾

サクラ 桜 サクランボ



富山県ナチュラリスト
菅野 紀子

爽やかな初夏はサクランボの季節です。対になった音符の様な形と赤い色がとても可愛らしい！サクランボのなる木は西アジア原産のセイヨウミザクラ(桜桃)で、ヨーロッパでは古くから野生化していたそうです。日本には明治初期に入って食用として改良を重ねられ、その最高傑作が佐藤錦。アメリカでの改良種アメリカンチェリー(ビング種)は輸送しても傷みにくいの良かったとか、国民性の違いが解るような・・・

早春のねいの里の明るい林にちらちらと黄色いマルバマンサクが咲く頃、サクラで一番早いキンキマメザクラを見るのは嬉しく、慎ましく俯いて咲く姿に心惹かれます。三寒四温を繰り返しながらも季節は間違いなく進み、皆が浮き立つお花見のシーズンに突入します。

自然交配も多い上、人為的な交配種はソメイヨシノをはじめとして数知れず、とてもサクラは難しそう、でも少しは解るようになりたいと思っていました。以前植物園で行われたサクラの観察会に参加して、富山県で基本となるサクラは10種類位、開花時の展葉、萼筒の形、毛の有無、葉の形や鋸歯、開花時期、分布など見分けのポイントも知り、入って行けそうな気がしました。

寿命が長くて風格があるエドヒガン。ソメイヨシノやコシノヒガンはこれが片親になっている。キンキマメザクラは県西部に分布し、早月川を境に東部ではオクチョウジザクラがあると言う。去年ようやく初見、今年も見に行きました。野生らしい古い木も残っている呉羽山緑化公園はソメイヨシノだけでなくエドヒガン、ヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラなどがあり、花や若葉の色が微妙に混じり合って印象派の絵画のような趣があります。

ねいの里や頼成の森のカスミザクラは散った花びらで気づく程高い。桜餅に使われ色々な里桜の片親になっているオオシマザクラは大きい白い花で結構あちこちにあり、松倉城址には多くのヤマザクラが剣岳をバックに眺められます。春遅い馬場島の濃いピンクのオオヤマザクラ、美松坂では7月にタカネザクラのお花見が出来ます。県外で、吹割の滝のチョウジザクラ、親海湿原のマメザクラ、上高地のミヤマザクラなど解ると嬉しいものです。シャンソンで歌われている「サクランボの実る頃」の桜はセイヨウミザクラの原種(食用系)かな？と想像したりします。



キンキマメザクラ

今年は大震災の後、復興もままならず本当に心が痛みますが、津波に負けずに咲いた桜が人々を元気づけていました。富山の残雪の山々と満開の桜の風景は、こんなに美しくて良いのかと心に沁みました。次の春の出会いを信じて元気を貰える、桜には桜でなくてはならない何かがあります。



呉羽山緑化植物公園の桜

お詫び：本原稿は22号用で頂きましたが、22号は「ねいの里開園30周年」を掲載した為、了解を頂き23号に変更させて頂きました。